

5 フィルム巻き上げ式開閉型ハウスによる野菜の良質苗生産

ねらいと成果

秋冬作野菜では、夏の高温、秋の長雨・日照不足等の気象変動により、苗の生育が不安定となり作柄に大きく影響を及ぼす。そこで、屋根フィルム巻き上げ式の全開閉型ハウス（図1）を利用して、高温や降雨による苗の徒長・生育不良を防ぎ良質苗の生産を図った。

レタスを本施設で育苗すると8～9月播種では、温室育苗に比べ徒長が抑えられ、根張りが良く植え傷みの少ない苗になった。タマネギでは、葉鞘径・重量の大きい苗が得られた。

内容

1. 9月の晴天日、ガラス温室では9時頃から気温が急激に上昇し最高値31℃に達したが、本施設では上昇が緩やかで最高値28℃と低かった。最低気温では差がなかった（図2）。固定張りハウスの場合も同様の傾向がみられた（データ省略）。

2. 高温期におけるレタスの8月20・30日播種では、草丈の伸長は抑制されるが、全開閉型ハウス育苗は、ガラス温室育苗と比べて、地上部重量・根部重量が

大きくなり充実した苗になった。9月10・20日播種では、温室育苗が草丈・地上部重も大きくなるが、全開閉型ハウス育苗では地上部の伸長は抑えられ、根重が大きよく締まった、根張りの良い植え傷みの少ない苗になった（図3）。

3. タマネギのセル育苗では、早生・中生・晩生種いずれの育苗時期においても、固定張りハウス育苗に比べて全開閉型ハウス育苗で葉鞘径が太く、苗の重量（地上部重+根重）・根数も上回った（表）。

普及上の注意事項

通常のパイプハウス（間口6m×奥行23m、パイプ径32mm、パイプ間隔45cm）を全開閉型に改造する場合、材料費（巻き取りパイプ、軸の固定具、ユニバーサルジョイント、フィルム等）と施工費で約30万円を要する。換気扇を設置すると10万円程度が追加となる。台風通過時には、本施設のサイド及び屋根フィルムを閉め、巻き取り軸を固定する。さらに、換気扇を回して内部を負圧にしフィルムのバツキを抑えると、風速30m程度の強風に耐えられる。

小林尚司（淡路農技・農業部）

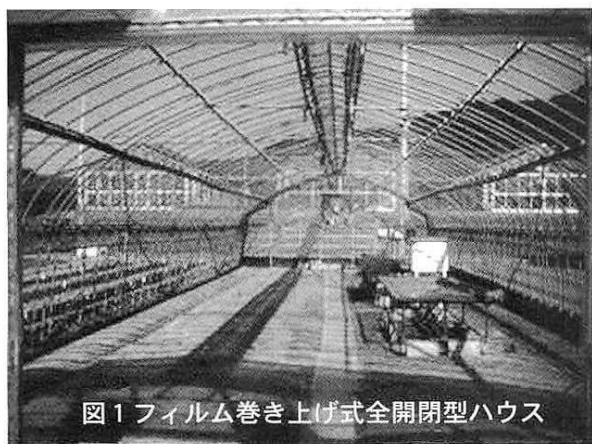


図1 フィルム巻き上げ式全開閉型ハウス

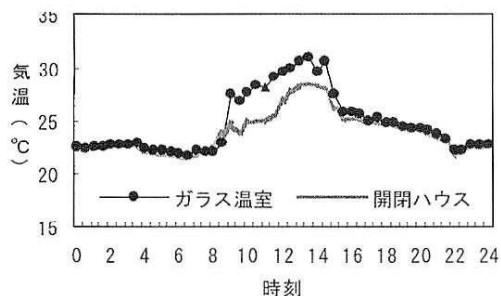


図2 全開閉型ハウスとガラス温室の気温の推移(9月16日)

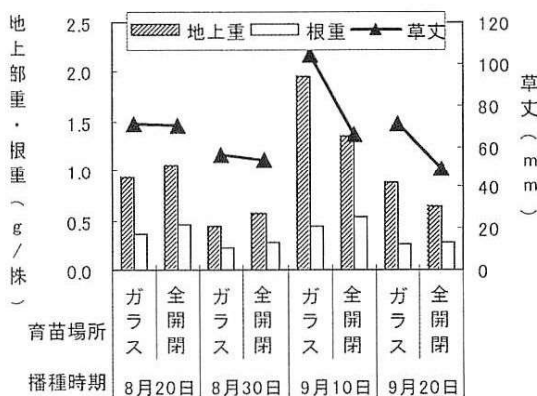


図3 育苗場所・播種時期の違いがレタス苗の生育に及ぼす影響

品種名	育苗場所	緑葉数 枚/株	葉鞘径 mm	地上重 g/株	根重 g/株	根数 本/株
七宝早生7号 (早生種)	開閉ハウス	3.5	4.7	1.9	0.3	20.1
	固定ハウス	4.6	4.4	1.9	0.3	18.3
ターザン (中生種)	開閉ハウス	3.2	4.1	1.5	0.2	15.6
	固定ハウス	4.1	3.7	1.2	0.2	15.3
もみじ3号 (晩生種)	開閉ハウス	3.6	4.7	1.9	0.3	16.6
	固定ハウス	4.2	3.7	1.2	0.3	15.5

播種日：(早生種)9月20日、(中・晩生種)9月27日